

令和 2 年 第 1 回区づくり推進横浜市議員会議（緑区）議事録

開催日時	令和 2 年 2 月 5 日 午後 2 時 30 分 ～ 午後 3 時 45 分
場 所	緑区役所 会議室 3 A
出席者	<p>【座 長】高橋正治 議員</p> <p>【議員：3 名】齊藤達也 議員、今野典人 議員、鴨志田啓介 議員</p> <p>【緑区：27 名】小野崎信之 区長</p> <p>三瓶一道 副区長</p> <p>室谷洋一 福祉保健センター長</p> <p>市川一弘 福祉保健センター担当部長</p> <p>関戸義仁 緑土木事務所長</p> <p>ほか区関係職員</p>
議 題	1 令和 2 年度 個性ある区づくり推進費 予算案
発言の 要 旨	<p>1 令和 2 年度 個性ある区づくり推進費 予算案 (区長・副区長説明)</p> <p>【1 災害に強いまちづくり事業】</p> <p>齊藤議員：地域 BWA の追加配備に伴う情報受伝達ツールの購入とは。</p> <p>山田総務課長：アンテナはすでに配備済みで、通信可能な状態です。</p> <p>現在、区役所と土木事務所と連絡がとれるようにそれぞれタブレットを渡しており、昨秋の台風でも通信できるようになっています。</p> <p>今後は民間の団体の方たちと LINE WORKS というツールを使って、いざというときに支援や応援していただくときに、迅速に連絡できるようにするなど拡大を計画しており、そのための機材購入費を計上しています。</p> <p>齊藤議員：緑区防災計画「風水害編」の修正はどのような流れで修正を行うのか。</p> <p>山田総務課長：市全体の防災計画の修正に伴って、関連する部分を修正するような内容を考えています。昨秋の台風被害を踏まえ、市の危機管理室で 3 月末までにある程度の方向性を示して、出水期から実際にそれがどうなるかの検証をして、今秋の危機管理推進会議でその内容を報告する予定となっていますので、区ではその報告を受けてということになってくると思います。</p> <p>齊藤議員：体験型アトラクション事業とは。</p> <p>山田総務課長：親子で実際の災害が起きたときをシミュレーションして、いろいろなアトラクションを使って体感してもらうというものを民間事業者のほうで実施しておりまして、緑区でも民間事業者に</p>

依頼して緑スポーツセンターで親子・小学生を対象にいざというときにどう行動していいかを体感して経験してもらうことを考えています。

【2 安全・安心まちづくり推進事業】

齊藤議員：振り込め詐欺被害防止事業の簡易型自動録音機の配布とはどういう内容か。

岩岡地域振興課長：受話器に接着して使用する簡易型のものを配布します。

ただ、性能は優れておりまして、受話器を上げる動作をセンサーが感知しまして、「通話内容を録音します」というメッセージが流れ、受話器を通じて電話をかけてきた相手方に聞こえるようになっています。録音時間は5分です。

被害の防止と啓発の意味も兼ねまして、簡易な製品を多くの区民に配布しまして、特殊詐欺への対策の必要性を認識していただき、しっかりした防犯につなげていきたいと考えています。

齊藤議員：スクールゾーン対策について、今年度事業の特徴は。

川崎緑土木事務所副所長：滋賀県大津市の事故を受けて、交差点の集中点検を行い、その結果として、交差点への車止めの設置を重点的に進めています。

【5 健康たうん・みどり推進事業】

齊藤議員：みどり食育実践推進事業の一部が新規事業となっているが、従前から実施していたものと違うのか。

青木福祉保健課長：食育の関係は別事業として実施していましたが、6月が食育月間のほか、世界禁煙デー、緑区の健康週間などが重なっていることから、そのあたりを新たにセットでやるということで、新規事業とさせていただきました。

「平常時から考える食の備蓄」については、備蓄食料のローリングストック（賞味期限の迫ったものを消費し、新しいものを新たに備蓄する）の際に、その備蓄食料を使って健康のために栄養バランスのある食事を作ってもらうための啓発リーフレットを作成したいと思っています。

体験型がん啓発事業については、例えば乳がんの触診モデルについてはかなり古くなってきていることから買い替え、大腸がん・肺がんについても精巧なモデルのものがあるので、それを見て触っていただくことで、がん検診の啓発につなげていきたいと思っ

ております。

鴨志田議員：緑区といえば野菜ですが、野菜以外の食育、例えば鶏や卵などについて子供たちと一緒に勉強しに行くというようなことはやっているか。

青木福祉保健課長：平成26年度頃の国民栄養調査によると、緑区は成人男性の野菜摂取量が理想の量（350g）をかなり下回っています。せっかく緑区という名前ですし、たんぱく質系のものは取れているので、野菜に重点を置いて事業を進めているところです。

【8 保育所すこやか子育て支援事業】

齊藤議員：多言語対応サポート事業とは何をやるのか。

久保田こども家庭支援課長：自動翻訳機（ポケトーク）を購入し、各保育園で2台ずつ使えるようにします。

今野議員：たまたま私が海外へ行ったときにポケトークを持って行って、翻訳しようとしたら日本語の翻訳ができなかった。そういうことがないように注意していただきたいが、使用感などを調べた最新状況を踏まえての選定と考えてよいか。

久保田こども家庭支援課長：ポケトークを選んだ理由としては、利用可能言語数が多いということです（74言語対応）。私どもが預かりしているお子さんは、ぱっと思いつくだけでも10以上の言語があり、いわゆるマイナーな言語も含まれています。そういうところも含めて対応できるだろうと考えていますが、今後も最新状況を踏まえて対応を考えていきたいと思えます。

【10 青少年地域サポート事業】

齊藤議員：区内大学等と連携した青少年向け体験講座事業では、具体的にどの大学と連携するのか。

岩岡地域振興課長：東京工業大学を考えています。

大学のひとつの研究室と連携し、中学生を対象にした実験教室をやっていただこうと考えています。

【18 生物多様性保全に向けた遊水地等の環境整備事業】

今野議員：具体的にどんなことをするのか、緑区内外へ発信とはどんなやり方なのか。

川崎緑土木事務所副所長：この事業は「連携づくり及び企画検討」と「かいぼり」の2本立てにしています。現在、梅田川と岩川において、

治水安全度の向上を図るため、浚渫（しゅんせつ）等の取り組みを進めています。その一環として、来年度は梅田川遊水地での泥上げを予定しています。この機会を捉え、地域団体と連携してかいぼりを実施していこうと考えているところです。

それと並行して、緑区内にはいろいろと活動されている団体や場所がありますので、そういうものをきちんと押さえつつ、横のつながりをどうやったら仕掛けられるかということに関して検討していきたいと考えています。

情報発信については、どういうツールが一番効果的かというところも含めて、来年度検討した上で実施していきたいと考えています。このように、複数年かけて連携を上げていきたいということで立ち上げた事業です。

【21 子どものまちづくりイベント Mini Mini Midori】

【22 アートによる緑区の魅力発信事業】

齊藤議員：令和元年度から令和2年度に向けてどういうふうを実施するのか。

大塚区政推進課長：Mini Mini Midoriについては、令和元年度は区制50周年ということで大規模に実施しましたが、これからは長く継続していくことを考え、会場の規模感は若干小さくせざるを得ないと考えています。また、今年度のMini Mini Midoriで子ども実行委員が出来上がっています。その方々を中心に色々と企画を考えてというコンセプトは継続させていきたいということと、区内のほかの場所を回りながら長くつづけていけるようなやり方にしたいと思っております。

アートによる緑区の魅力発信事業ですが、区制50周年時はわらアート、それ以前はスマートイルミネーションをやっていたりということで、地域の新たな魅力を発信するためにアートを使うという手法でやっておりますので、同じような趣旨でアートイベントを行いたいと思っております。

【23 みどり環境行動啓発事業】

今野議員：いわゆるレジ袋などのワンウェイプラスチックの削減に向けたキャンペーンをやっていくというなかで、この分野についてはもうちょっと伸び切らないといけないと思うが、何か目新しいようなことをやるのか。

大塚区政推進課長：現在実施しているものとして、店頭啓発キャンペーンを定期的に地域振興課と連携してやっており、ごみの削減と温暖化対策の啓発をスーパーの添付をいくつか回りながらやっており、それは引き続きやるとともに、新しい内容としては、区役所で野菜の直売会を週2回やっていますが、そういったどうしても袋を使ってしまうところで削減キャンペーンを打っていったり、お子様からご年配の方まで地球温暖化などに関心を持っていただけるようなイベントを考えています。

【25 緑・芸術文化事業】

齊藤議員：Art Train でオリパラ応援事業の、グリーンラインの車両に貸切展示するというのはどういう手法をとるのか。

岩岡地域振興課長：交通局において、アドトレインという車内の貸切広告のメニューを採用して実施するものです。

白山高校の生徒さんにとっては発表の場の確保・技術の向上、交通局にとっては歳入の増加、緑区にとってもオリンピックの啓発ということで、三者それぞれにメリットがある事業だと考えています。

【28 緑区商店街振興事業】

齊藤議員：商店街 Special Week は、2年間で7商店街を一巡と書かれているが、2年間やるという考えか。

岩岡地域振興課長：そのとおりです。1つの商店街を3か月ずつ集中的にPRしていこうという考えです。

集中的にPRすることによって1人でも多くの市民の皆さんに商店街に目を向けてもらうとともに、PRを通じてそれぞれの商店街で活性化に向けて考えていただこうという事業です。

具体的な中身としましては、一番大きいのはそれぞれの商店街で、商店の店主の方を被写体にしてポスターを作り、キャッチーなコピーを作っていただき、それぞれの商店街に掲示していただいて、目に留まるようなポスターを作っていこうというものでございます。

2つ目は、三か月のなかのどこか1か月で広報よこはまに商店街を紹介する記事をのせていきます。

3つ目は、それぞれマスコミなどと連携し、工夫した事業をやれば記事にしてもらうということで話を進めています。

	<p>齊藤議員：まさに光を当てるという意味で重要だと思うが、負担感みたいなものが現場は出たりするので、どの程度まで区役所がやるのか、商店街の側が何をやったらいいのかといった役割分担は考えているのか。</p> <p>岩岡地域振興課長：この事業は緑区の事業として実施しますので、区役所でいろいろと調整させていただきます。</p> <p>イベントにつきましては新しいことをやってほしいということではなく、既存のイベントにちょっとした工夫をしていただければマスコミにも取り上げてもらいやすいと考えています。</p>
備 考	<p>(資料) 令和2年 第1回区づくり推進横浜市議員会議 (緑区) 次第 令和2年度 個性ある区づくり推進費 予算案</p>